

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 高山陣屋跡御蔵屋根葺替事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 高山陣屋管理事務所 管理調整係 電話番号：0577-32-0643

E-mail：c21806@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 70,486千円（前年度予算額：0千円）

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	70,486	0	0	26,712	0	0	0	0	43,774
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

高山陣屋跡保存修理事業を実施し、国史跡高山陣屋跡を保存します。

御蔵については、石置長樽葺であり、使用されている屋根材は主に長樽板である。この長樽板については20年使用が通常であり、5年に1度板返しをしながら20年で使い切るというものである。

### (2) 事業内容

#### 【保存整備事業】

- ・御蔵屋根葺替工事設計（平成28年度屋根葺替 5年毎）
- ・御蔵屋根葺替用くれ板購入（長樽板、折皮）

### (3) 県負担・補助率の考え方

高山陣屋跡保存修理事業

負担区分及びその財源

岐阜県（財源 使用料、一般財源）

### (4) 類似事業の有無

無

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	2,286	御蔵屋根葺替工事設計（補助対象外）
原材料費	68,200	御蔵屋根葺替用くれ板購入（補助対象外）
合計	70,486	

#### 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

高山陣屋跡保存修理計画

#### (2) 後年度の財政負担

計画的に保存修理を実施していくため、財政負担必要

#### (3) 事業主体及びその妥当性

岐阜県が事業主体となり、高山陣屋跡保存修理を適切に実施し、施設を広く公開する。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 全国唯一、徳川幕府の代官所跡が現存する国史跡高山陣屋跡の保存修理を適切に行い、広く公開します。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(R)	(R)	(R)	(R)	(R)	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

維持管理を行いながら適時に修理していく必要があり、数値化は困難

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
 屋根葺替工事（御役所南）  
 屋根葺替工事監理（御役所南）  
 耐震補強設計  
 屋根葺替工事用くれ板購入（郡代役宅一部）  
 樽へぎ実演用原木購入

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
 文化財保存の観点から適切に事業を行い、国史跡高山陣屋跡を良好な状態で維持保存することができた。  
 345千人（平成31年度）の入場者に施設を公開することができた。入場者からは、またぜひ訪れたい、貴重な施設を今後も維持保存して公開してほしい等のご意見があった。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価) ○	施設を良好な状態で維持保存していくために、必要性が高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	施設を良好な状態で維持保存し、345 千人（平成 31 年度）の入場者に公開することができた。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価) ○	専門家会議で助言や指導を受けながら保存修理を行い、効率的に事業を行っている。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 施設を適切に維持保存し広く公開していくために、専門家会議や文化庁の指導を受けながら事業を進めたい。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 年間 345 千人（平成 31 年度）の入場者がある国史跡高山陣屋跡を、県民の誇りとして維持保存し広く公開するために、適切に事業を行っていく。
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	